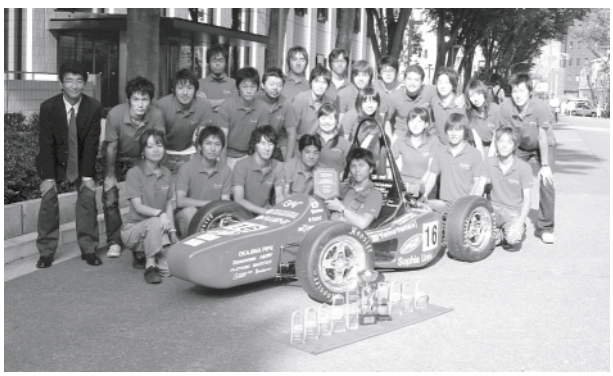
第4回 全日本 学生フォーミュラ大会参戦記

上智大学 Sophia Racing
2006年度プロジェクトリーダー　泉　隼太

"上智大学　総合優勝"
2003年第1回日本大会、当時、1年生であった僕は何もわからず、Sophia Racingは強いチームなんだとそのすごさを感じていた。その後も活動を続け、第2回、第3回大会と、Sophia Racingは思うような結果が出せない時期が続いていた。そして、2006年、第4回日本大会に向けてチームリーダーの僕と、3人のパートリーダー矢野、伊藤、小室を中心とする新たなチーム体制で、SR05車両開発を行った。昨年度は、チームとして本当の実力が問われる年と考え、チームは結成当時のコンセプト"Prove to the world"を掲げ、Sophia Racingの真価を証明すべく、日本大会総合優勝を目指しチーム一丸となって活動を行ってきた。

SR05車両においてはこれまでに得た技術や知識をより活かすために、すべての部品を基本設計から見直し、"軽量""低重心""商品性"3つのコンセプトを兼ね備えた、世界に通じる車両を目指した。そのために空力解析、疲労解析といった新しい設計手法をとり入れることにより、昨年度車両より25kgの軽量化が実現された。4月23日のシェイクダウン以降多くの試験走行をくり返し、第4回日本大会へ出場した。

今大会は、第1回目の世界大会として開催され、ミシガン大学の招待参加、そして過去最大参加数である50校の大学が参加する大会となった。静的イベントにおいては、課題はさまざまあったものの順調に競技を終えていった。そして、競技は後半の動的イベントへ移行する。雨がやみ、路面がわずかに濡れている状態で、アクセラ・スキッドパッドを終了し、オートクロス競技に望んだ。しかし、オートクロス1回目走行中、今まで順調に走行していたにも関わらず、突如として車両の挙動が安定しなくなった。



突然のトラブルにオートクロス2回目を前にチームには、不安と焦りが入り混じった空気が流れた。問題を解決するために、トルクチェックやアライメントチェックと自分達ができることをすべて行った。日没ギリギリ、SR05は車両確認を終え、最後のオートクロスに向けてピットを後にした。車両走行中、チーム全員がエースドライバーである前田が操るSR05車両を祈るような思いで見つめていた。そしてタイムは "44秒36 "なんと最後の最後でトップタイムをたたき出すことができた。これで今までの流れは完全に変わったと確信した。次の日の最終競技エンデュランスでは、ミシガン大学と2台での走行であった。途中ひやりとする場面もあったが、SR05は無事に走行することができ、すべての競技種目を終えた。

そして最終日、表彰式"総合優勝　上智大学"と呼ばれると共に、僕は中央の舞台に向かった。思わず涙が出てきた。一年間の努力が実った瞬間だった。
こうして一年を振り返ってみると、2005年9月末に何も分からずリーダーとなり、2005年12月オーストラリア大会、2006年6月アメリカ西大会の異国の地での戦い、そして2006年9月日本大会総合優勝。

Sophia Racingのリーダーとなった日から、とにかくがむしゃらに走り続けてきた。そして感じたことは1人では何も出来ないということ。つまりは、周りの人々の協力なしではここまでやってこれなかったと、しみじみ感じている。
最後にこのようなすばらしい機会を与えてくれた本大会、そして、今まで指導していただいた先生、苦楽をともにしたチームメンバー、チームを支えていただいたスポンサーそしてSophia Racingに関係してきた多くの方々に感謝すると共に、今後もこの有意義な活動である学生フォーミュラ大会がより発展することを祈っている。